【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和7年1月20日(2025.1.20)

【国際公開番号】WO2023/200000
【出願番号】特願2024-515012(P2024-515012)
【国際特許分類】
A61B 17/04(2006.01)
A61L 17/12(2006.01)
A61L 17/06(2006.01)
【FI】
A61B 17/04
A61L 17/12
A61L 17/06

【手続補正書】
【提出日】令和6年10月22日(2024.10.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ヒト又は動物の組織の開口部を縫い合わせるための軟性内視鏡下手術用縫合糸であって、
縫合糸本体部と、
前記縫合糸本体部の長さ方向の中央に配置され、かつ、前記縫合糸本体部の抜け止めとなる１つの止め部材と、
前記縫合糸本体部の挿入方向とは反対側に向かって斜めに突出する複数の突出部と、
を備え、
前記複数の突出部は、
前記縫合糸本体部の長さ方向において、前記止め部材を基準として、一方の側に配置されるとともに、前記縫合糸本体部の他方の側かつ外側に向かって斜めに突出する複数の第１突出部と、
前記縫合糸本体部の長さ方向において、前記止め部材を基準として、他方の側に配置されるとともに、前記縫合糸本体部の一方の側かつ外側に向かって斜めに突出する複数の第２突出部と、
を備える、軟性内視鏡下手術用縫合糸。
【請求項２】
前記縫合糸本体部の両端は、前記開口部近傍の組織の外壁側から内壁側に挿入される、請求項１に記載の軟性内視鏡下手術用縫合糸。
【請求項３】
前記縫合糸本体部の一端は、前記開口部の開口径が最大である、前記開口部近傍の組織の外壁側から内壁側に挿入され、かつ、前記縫合糸本体部の他端は、前記縫合糸本体部の一端が挿入される前記開口部の前記組織の反対側に位置する組織に外壁側から内壁側に挿入される、請求項１に記載の軟性内視鏡下手術用縫合糸。
【請求項４】
前記止め部材は、前記複数の突出部と協働して外壁側で前記開口部を窄めた状態で保持する、請求項１に記載の軟性内視鏡下手術用縫合糸。

【請求項５】
前記縫合糸本体部は、前記複数の突出部を有する第１縫合糸片と、前記複数の突出部を有する第２縫合糸片とからなり、
前記第１縫合糸片と前記第２縫合糸片との接合部分に、前記止め部材が配置される、請求項１に記載の軟性内視鏡下手術用縫合糸。
【請求項６】
前記止め部材は、球状を有する、請求項１に記載の軟性内視鏡下手術用縫合糸。
【請求項７】
前記止め部材は、板状である、請求項１に記載の軟性内視鏡下手術用縫合糸。
【請求項８】
前記止め部材は、コイル形状を有する、請求項１に記載の軟性内視鏡下手術用縫合糸。
【請求項９】
前記止め部材は、前記縫合糸本体部を結んだ結び目である、請求項１に記載の軟性内視鏡下手術用縫合糸。
【請求項１０】
前記止め部材は、前記縫合糸本体部を挟持可能なクリップである、請求項１に記載の軟性内視鏡下手術用縫合糸。
【請求項１１】
生体吸収性材料からなる、請求項１に記載の軟性内視鏡下手術用縫合糸。
【請求項１２】
前記縫合糸本体部の両端に針を備える、請求項１～１１のいずれか１項に記載の軟性内視鏡下手術用縫合糸を用いてなる、軟性内視鏡下手術用縫合ユニット。